

お盆特集

死ぬ時は平和に静かに迎えたい

ゲージツ家 篠原 勝之さん



寺印

オッカサンは胸に当たった手で左の肩をささってその手を下ろす。仕草を繰り返して、生きていくこと、この世界ではその振る舞いは苦しみに見えるから、何とかしてあげたいと、叫んだり揺らしたりしちゃうけれど、未熟者のすることなんだと思っちゃったよ。あつちの世界へむかっていく何かのブロックサインだとオレは思うんだ。オッカサンはしばらくすると、体中の空気を全部出すように息

オッカサンの「死のオペラ」

去年の6月にはオッカサンを看取ったんだ。その日は宴会に誘われて高知に行ってきたんだけど、朝になって何だか宴会に行くのが嫌になって、朝一番の飛行機で帰った。そしたら間に合った。

今年でオレも75歳になるけど、生きていけば生きていくほど、周りで人が死んでいくんだ。悲しんだりもするけれど、若い頃のようにショックじゃないんだ。ロウソクの火のように「消えちゃったな」って。ロウソクの火が消えるのに大した理由なんかないだろ。それと同じだ。死ぬというのは大変なことだけど、終わっていくことだって実感できる年齢になった。



山梨県内に構えるアトリエの「放屁庵(ほうひあん)」にて。アトリエの敷地には作品を制作する工場と蓮が咲くルシャナ池がある

「独りっ茶」で自分の時間を取り戻す

を吐き出して、目をカッと見開いて逝っちゃった。死のオペラだったね。老衰だった。人間の最期を迎える幸せな時間だったと思う。

30代の時にお世話になった小説家の深沢七郎さんの最期も見事だった。深沢さんの「ラフミー農場」をオレも手伝ってたんだ。あの人は床屋の椅子が大好き。リクライニングにもなるし、世界中で一番優れた椅子だった。その椅子に座って畑を見てうたた寝するのが好きだった。最期はその床屋の椅子で居寝するようになつた。深沢七郎とオッカサンは死ぬ名

のほら、かつゆき(昭和17(1942)年札幌市生まれ。「クマさん」の愛称で知られるゲージツ家。鉄の町、室蘭市で少年時代を過ごす。17歳で上京後、絵本、舞台美術、小説、エッセイなどで活躍。1986年から鉄を素材にしたタイニミックなモノメントなどの作品をつくり始める。2015年発表の『骨風』では家族や自分の生と死を見つめる連作集で話題を呼び、第43回泉鏡花文学賞を受賞した。『走れU.M.I.』で小学館児童出版文化賞を受賞。現在は山梨県北杜市内にアトリエを構えて制作活動をしている。

生きる哲学としての仏教

最近毎朝お茶を点てるんだ。「独りっ茶」と呼んでる。お茶を飲みながら、アリンコや山を見てじーっと考える。今日一日のことや自分の在りようやらをね。一日のうち10分でも自分のために使う。便利な世の中になったはずなのに、かえって忙しくなってる。自分を取り戻す時間がないと、とんでもない世の中になっちゃう。だから人にも奨めてるんだ。茶約を削ってプレゼントしたりして。目を開けたままの瞑想みたいなもんだから、オレにとっては大切な仏事だ。

今育ててる蓮は東大寺の森本公誠さんから分けてもらったんだ。東大寺の「お水取り」にうかがったんだ。あの火と水の水の牽りをするの、うらやましかった。それに東大寺は唯識論のメッカだ。障がい児の施設「東大寺光明園」に作品を寄進したこともあってね。そうやって縁があったんだ。

昔から生きる哲学として唯識とか仏教の考え方に興味があった。最初に唯識に出会ったのは60年代の新宿。飲み仲間、インド哲学者の松山俊太郎さんがいた。松山さんが言うんだ。「クマ、華厳経といふものがある、なかなか難しいお経だ。でも分かんなくてもいいからひたすら読め。いつか光が見えてくる」って。理解はできなかったけど、惹かれるものがあった。「ただ心のみ」ってなんだろうなって。

「華厳唯識偈」を写経することもあるん

深沢七郎とオッカサン 死ぬ名人の双璧

だけど、オッカサンの葬式は、坊さんを呼ぶな、戒名はいらないって言われてたから、親族で写経してお棺に入れたんだ。この年になると変なこだわりもなくなつてお経も素直に読める。荒唐無稽な物語も多いし、それを素直に楽しめばいいんだ。オレは勝手に「困った時の観音経」って言って、人を励ます時には「念彼観音力」って言うことがあるんだ。

仏教は良いと思うけど伝統仏教の坊さんはなかなか外に出てこない。東日本大震災の時も、一日だけでも宗派にこだわらず坊さんが大挙して祈り倒してほしかった。大地震や津波を押し返すぐらいたつてもいい。何か助かるわけでもない、壊れたものをもとにもどるわけじゃないけれど、お経が心の力になる。そういう大事だ。

職業じゃなく生き方だ

鉄の街、北海道の室蘭で育った。うちは父親の暴力もあって、高校生で家を出しようと思った時に、どう生きていくかという問題にぶち当たった。子どもの頃から絵を描くのが好きだったから、そういうもので生きていけたらなあと思った。会社勤めをしたこともあったけど合わなかった。23歳の時に頭を刺した。会社や家にも所属しないという表明だ。「ゲージツ家」は職業じゃなく生き方だから。作品で発言する。それが面白いと思ってる。

まあどこにも所属しないとか言ってるけど、蓮を育てるにも毎日様子をみないとけない。虫がいたらつぶしたりして。生きてるってのはこの天気だったり、風だったり、色んなことに関わってることなんだ。



『ヒカリ蘭』2004年奈良公園(燈花会)にて。蚊帳、竹、蠟燭を素材に「ゆらぎ」を表現した。

お盆号の感想

お盆号の感想や、お盆の思い出をお寄せ下さい。400字以内でハガキやFAX、メールで。住所・氏名・年齢を明記のこと。

紙面に掲載する場合もあります。粗品呈。仏教タイムス社企画室 〒162-0843

東京都新宿区市谷田町2-7 東ビル6階 電話03-3269-6701 FAX03-3269-6700 Mail=info@bukkyo-times.co.jp

全葬連葬祭サービスガイドライン遵守宣言



全葬連は経済産業大臣の認可を受ける日本最大の葬祭専門事業者団体です。各都道府県知事認可を受けた59の協同組合、1,340社が加盟しております。

経済産業大臣認可 全日本葬祭業協同組合連合会

<ホームページ> <http://www.zensoren.or.jp>

全葬連

検索

北海道葬祭業協同組合	011-532-5000
青森県葬祭業協同組合	017-765-6635
岩手県葬祭業協同組合	019-656-0244
宮城県葬祭業協同組合	022-299-3271
秋田県葬祭業協同組合	0187-86-3530
山形県葬祭業協同組合	0237-42-4101
福島県葬祭業協同組合	0248-22-5231
新潟県葬祭業協同組合	025-247-2511
信州葬祭業協同組合	0266-41-0463
茨城中央葬祭業協同組合	0296-75-4066
栃木県葬祭業協同組合	0287-96-3166
群馬葬祭業協同組合	027-371-6162
埼玉葬祭業協同組合	048-834-6511
千葉中央葬祭業協同組合	043-224-4454
東京都葬祭業協同組合	03-3941-4291
東京葬祭業協同組合	03-3676-4895
山手葬祭業協同組合	03-3302-1710
東都聖典協同組合	03-3313-4081
東京多摩葬祭業協同組合	0422-49-0001
八王子葬祭業協同組合	042-622-2711

神奈川県葬祭業協同組合	045-721-8607
山梨県葬祭業協同組合	0554-22-3612
静岡県葬祭業協同組合	054-252-2495
富山県葬祭業協同組合	0766-52-8111
石川県葬祭業協同組合	076-275-1400
福井県葬祭業協同組合	0776-54-0960
岐阜県葬祭業協同組合	0575-22-3254
名古屋葬祭業協同組合	052-241-0658
愛知県葬祭業協同組合	0586-24-0948
三重県葬祭業協同組合	0598-25-2137
滋賀県葬祭業協同組合	0749-22-5000
京都中央葬祭業協同組合	075-253-0850
大阪葬祭業協同組合	06-6768-0042
大阪市規格葬儀指定店事業協同組合	06-4305-7424
北摂葬祭業協同組合	06-6853-6171
奈良県葬祭業協同組合	0745-22-8755
きのくに葬祭業協同組合	0737-52-6788
阪神葬祭業協同組合	06-6434-3327
神戸葬祭業協同組合	078-787-3434
兵庫県葬祭業協同組合連合会	06-6434-3327

鳥取県葬祭業協同組合	0858-23-2011
岡山県葬祭業協同組合	086-224-7131
岡山県豊後葬祭業協同組合	086-446-7467
広島県葬祭業協同組合	082-879-4949
島根県葬祭業協同組合	0853-23-6002
山口県豊後葬祭業協同組合	083-223-4440
徳島県中央葬祭業協同組合	088-622-6384
香川県葬祭業協同組合	087-833-7124
愛媛県葬祭業協同組合	089-961-4592
高知県葬祭業協同組合	088-875-7200
福岡県葬祭業協同組合	092-918-1555
北九州連葬祭業協同組合	093-761-2612
佐賀県葬祭業協同組合	0955-73-1122
長崎県葬祭業協同組合	0957-53-5175
熊本県葬祭業協同組合	0966-22-4044
大分県葬祭業協同組合	097-535-1742
宮崎県葬祭業協同組合	0985-50-5202
鹿児島県葬祭業協同組合	099-261-7420
協同組合全沖縄葬祭業	098-888-1018

お葬式は、安心と信頼の全葬連